

[連載]第21回 清々しき人々 月尾嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

江戸時代に日露紛争を解決した商人 高田屋嘉兵衛



高田屋嘉兵衛 (1769-1827)

北方から襲来する ロシアの脅威

ユーラシア大陸の東端に位置する島国の日本は、古来、海外と活発に交流する国家でした。六〇〇年に最初の派遣以来、遣隋使は五回、さらに六三〇年からは約二六〇年間に二〇回近く遣唐使を派遣しています。これらは大陸の先進文化を導入することが目的でした。一六世紀になると、航海技術の進歩により、スペインやポルトガルからキリスト教宣教師が到来するようになり、その影響で日本からは天正遣欧使節や慶長遣欧使節が派遣されます。

織田信長は布教を容認し、その政策を豊臣秀吉も継承していましたが、小西行長や高山右近などキリスト教徒による神道や仏教の迫害、キリスト教宣教師による日本の農民の奴隷売買などが発生したため、秀吉は一五八七年に「パレン追放令」を発令、さらに徳川幕府は一六三三年の「第一次鎖国令」から三十九年の「第五次鎖国令」まで次々と発令し、日本は約二三〇年間の鎖国状態になります。

その時代にも長崎の出島ではオランダなどの交流を維持し、西洋の情報や文物を入手していましたが、その程度では国際情勢は十分に把握できず、西欧先進諸国が日本周辺に出没しはじめたことに気付くのに出遅れました。最初に接近してきたのが東方進出を目

指すロシア帝国でした。まず一七世紀に清国との国境を確定すると、カムチャッカ半島のペトロパロフスクを拠点にロシア船舶が日本周辺に出没するようになります。

すでに千島列島にはアイヌが生活していましたが、一八世紀になるとロシアの移民が到来しはじめます。そこで松前藩は一七五九年に交易拠点の函後場所を設け、管理を強化します。しかし一七九二年にはロシアのA・ラクスマンが遣日使節として根室に到来し通商を要求、一八〇四年にはN・レゾフが長崎に来航、〇六年にはN・フヴオストフが択捉島で略奪や放火をしたため、幕府は「ロシア船打私令」を発令し強硬な対策を開始します(図1)。

そのような状況で一八一一年に発生したのが「ゴロウニン事件」でした。千島列島周辺を測量していたロシアの軍艦ディアナが函後島の泊湾に入港したところ、警戒態勢にあった函後陣屋の役人に艦長のV・M・ゴロウニン(図2)らが逮捕され、松前に移送されて入牢となったのです。尋問した松前奉行は釈放を幕府に上申しますが却下されたため、ゴロウニン以下数名は脱走しますが発見され、再度、松前で獄中生活することになります。

国後・択捉に進出した商人

この国際問題の解決に尽力したのが今回紹介する高田屋嘉兵衛です。嘉兵

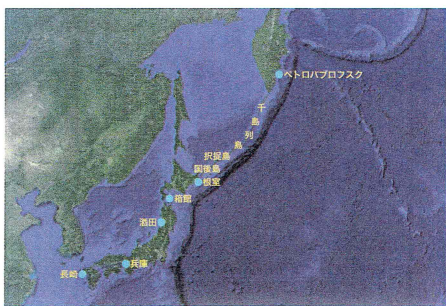


図1 対象地域

衛は一七六九年に淡路島西海岸の都志に農家の六人兄弟の長男として誕生します。一説では祖先が越後高田出身のため高田と名乗ったといわれています。子供時代から地元で漁業に従事し、子供の手伝いから地元で漁業に従事し、二二歳になった一七九〇年に対岸の兵庫で叔父が経営する堺屋に奉公します。堺屋は兵庫と日本海側の因幡や伯耆とを往来する海上船問屋でした。

すでに廻船の経験があったため船乗りとして順調に出世しますが、九二年に退職し、二年ほど野野で鰹漁に従事して独立するための資金を蓄積、九五年に兵庫の和泉屋伊兵衛のもとで船頭に復帰します。そして二八歳になった翌年、貯蓄していた資金と支援などにより、一五〇石積(現在の基準では約二三〇トン)の当時としては超大型船「長悦丸」を入手しました。これは新造船と中古船の両説がありますが、権利を入手して独立したのです。

嘉兵衛は兵庫で清酒、木綿などの商品を仕入れて瀬戸内海から開門海峡を通過して出羽の酒田で販売、米所の酒田でコメを購入して箱館へ輸送して販売、そこで魚類、昆布、魚肥などを仕入れて上方へ回航して販売するという無駄のない商売を開拓します。その拠点として、九八年には箱館に支店を開設し、弟金兵衛に管理させます。当時、蝦夷地との交易の拠点は松前、江差、箱館の三港でしたが、あえて他港より未開の箱館を選択したのです。

その選択は見事に的中し、翌年の九九年に江戸幕府は北方開発のために太平洋岸の東蝦夷地を直轄とします。その政策を幕府に提言し松前蝦夷地御用取扱に任命されたのが幕臣の近藤重藏でした。近藤は蝦夷地を四度訪問



図2 V.M.ゴロウニン(1776-1831)

し、最上徳内とともに千島列島や択捉島を探索した人物です。嘉兵衛は東蝦夷地の厚岸に滞在していた時期に近藤と出会い、その依頼で函後島と択捉島の区間の航路の開拓を依頼されます。この両島の中間にある函後水道の距離は二五キロメートル程度ですが、三方から潮流が衝突する航海の難所でした(図3)。嘉兵衛は函後島東端の高台から潮流を観察、無人の小舟を漂流させて流速を測定し、横断可能な航路を発見し、九九年夏に七五石積という小型の「宣温丸」で見事に渡航に成功します。そこで嘉兵衛は食料や鍋釜を満載した船舶で択捉島に渡航し、現地のアイヌに最新の漁法を伝授し一七箇所

の漁場を開拓します。このような背景から、幕府は漁業資源の宝庫である択捉島を本格開拓するため官船五艘の建造を嘉兵衛に委託します。大坂で建造した船舶を一八〇一年に箱館に回航し、千島列島一帯で運行します。それらの功績により嘉兵衛は幕府から「蝦夷地定雇船頭」に任命されるとともに名字帯刀も許可されます。翌年には自分の持船四艘も択捉航路に投入、〇六年には大坂町奉行から「蝦夷地産物売捌方」に任命され、地域の中心人物になります。

函館を発展させた高田屋

一八〇〇年に嘉兵衛は兵庫に「諸国物産運漕高田屋嘉兵衛」の看板で本店

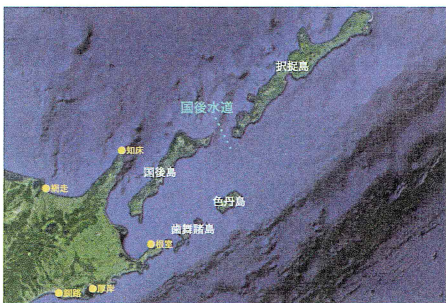


図3 函後水道

を開設しますが、箱館の支店を管理していた弟金兵衛が幕府から海沿いの約五万坪の湿地(現在の函館市宝来町)の埋立を許可され、そこに屋敷を建設して本店を箱館に移転します。そこで嘉兵衛は箱館を発展させるために〇四年に船作事場を開設させます。それまでは造船や修繕は対岸の津軽や南部でしかできませんでしたが、一気に便利になりました(図4)。

嘉兵衛は商売以外にも地域に多大の貢献をします。箱館奉行が立案した開墾計画に呼応して故郷から農民を入植させて農作や植林を推進し、淡路から雑具を運搬して箱館湾内で養殖も実施します。このような地域貢献精神が最大に発揮されたのが〇六年秋の箱館大火の直後でした。自身の本店も焼滅したのですが、類焼した町民に金銭、食料衣類を提供し、さらに長屋を建設して入居させ、日用雑貨を大坂から輸送して原価で放出したのでした。

ゴロウニン事件の解決に活躍

この順風満帆であった嘉兵衛に突然の災難が襲来します。一八一二年九月に択捉漁場から箱館への帰路、乗船していた「観世丸」が函後島沖でロシアの軍艦ディアナに拿捕されたのです。ディアナの艦長ゴロウニンが逮捕され松前で幽囚されている状況の詳細を入手するため、副官であったP・I・リ

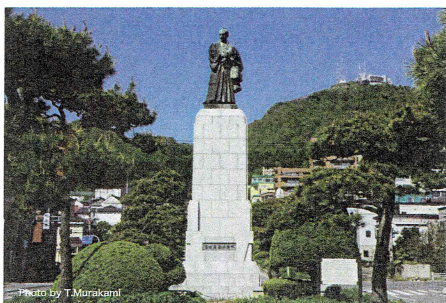


図4 高田屋嘉兵衛像(函館市)





図5 P. I. リコルド (1776-1855)

コルド(図5)が待伏せしていたのです。豪胆な嘉兵衛はリコルドにカムチャツカに同行すると伝達し、数人の乗員とともにデヤナで連行されました。...

嘉兵衛は上陸して因後陣屋で経緯を説明し、リコルドの作成した文書を手渡しますが、嘉兵衛を逮捕した当人の文書であるという理由で幕府は受領せず、リコルド以外の政府高官の文書を要求します。...

に貢献したのは教養と度量のある高田屋嘉兵衛であり、その仲介により日本と二国の国民に共通の合意をもたらしたと記載されています。...



図6 日露友好の碑 (函館市)

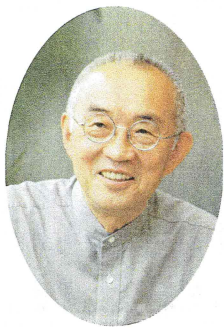
嘉兵衛の貴重な経験には幕府も重大な関心があり、兵庫に一時帰還したとき大坂町奉行所などが事件の経緯を尋問しています。...

江戸時代を代表する偉人 嘉兵衛の貴重な経験には幕府も重大な関心があり、兵庫に一時帰還したとき大坂町奉行所などが事件の経緯を尋問しています。...

江戸時代を代表する偉人

いた嫌疑により函館から所払いとなり高田屋は没落していききました。しかし、高田屋の活動の効果により箱館は安政六(一八五九)年の日米修好条約により、横浜、長崎とともに開港され、現在の発展の基礎が形成されました。...

つきお よしお 1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業、工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授などを経て東京大学名誉教授。...



◆参考：柴村洋一「北海の豪商・高田屋嘉兵衛」(歴史書房)二〇〇〇 宮本義憲「大海に挑みつづけた地域の発展に情熱を傾けた男・高田屋嘉兵衛」(みなとの人たち)「ウエイツ」二〇〇八所収

ざぶん賞

2018(第17回)小中学生の作文募集

人が生きるためにもっとも重要な物質は空気、そして水です。その空気や水が今、私たちに様々な問題を投げかけています。小中学生の皆さんが、水について文章を書くことで、水の現在や未来、そして命の大切さを考えてほしいと思います。

応募のしかた

- 資格：小・中学生 ●文章：未発表作品 ●字数：1,200字以内
●用紙：ざぶん賞応募用紙(ホームページからダウンロード)、A4用紙等、または電子データ。
●形式：タテ書き 濃い鉛筆、またはボールペンで書いてください。
●記入事項：題名/名前(ふりがな)/都道府県名/学校名/学年/性別/連絡先住所/連絡先電話番号(連絡先が学校の場合はご担当の先生のお名前)
●送付方法：郵送の場合 〒924-0053 石川県白山市水澄町429番1 送り先はこちら
ざぶん賞実行委員会事務局まで 電子メールの場合 info@zabun.jp
●締切：2018年9月6日(木)必着

全員に「ざぶん大使認定証」をお贈りします。文章選考委員長は作家の安部龍太郎氏です。入選作品は、画家、イラストレーター、工芸作家がアート作品に仕上げ、贈呈します。選考結果は2018年10月に発表。全国表彰式を2018年12月に金沢市で、地区表彰式を12月以降に各地区で開催予定です。

●文章作成や応募の際に発生する諸経費は負担しません。●応募書類は返却しません。●応募書類の不慮の破損や紛失の責任は負いません。●入選者以外への選考結果の告知はいたしません。●入選作品の出版権、および著作権は主催者に属します。●募集内容や選考要項など一部変更することがあります。主催：ざぶん賞実行委員会(委員長 月尾嘉男) 問い合わせ先：事務局 電話 076-287-6782

http://www.zabun.jp/

